多拠点居住から考えるこれからのライフスタイル
ー神奈川県と鹿児島県における体験観察を通してー

2016 年度
総合プロジェクト　都市デザイン研究室
主査：前田英寿　CY13007
副査：桑田仁　石塚仁深

研究の背景と目的

現代では体験的豊かさを求めてライフスタイルの質を重視すべく、移住や二拠点居住などの言葉が流行をみせている。
一方で人口や経済の拠点は東京の一局集中型に変わりはなく、地方都市は自治体の存続が危ぶまれる「消滅可能都市」に選定されるところが全国で約半数にまで伸びている。
小さい頃から家族でよく訪れた神奈川県三浦市。大学２年生の夏、インターンシップで奄美大島に１ヶ月滞在して以来毎年訪れるようになった鹿児島県。自分とゆかりのあるこの２つの地域も「消滅可能性都市」とされる地域が存在する。
本研究では全国的に大都市圏と地方都市のつながりに関連する取り組み調査に加えて２つの地域でこれまで自身が体験したことをもとに、今後の地方都市存続の可能性や課題を多拠点居住という視点で考える。

全国の地方と都市部を結ぶ取り組み

①地域おこし協力隊

主催支援：総務省
事業概要：地方自治体が都市住民を受け入れ、１年以上３年以下の期間で地域協力活動（農林漁業の応援、住民の生活支援等）に従事してもらう。そして都市住民の定住、定着を図り、総務省が双方に対して必要な支援を行う。

地域おこし協力隊の推移

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
隊員数	89名	257名	413名	617名	978名	1,511名 (1,629名)	2,625名 (2,799名)
団体数	31団体	90団体	147団体	207団体	318団体	444団体	673団体

②ふるさとプロデューサー育成支援事業

主催支援：中小企業庁（ふるさと名物応援事業の一部
事業概要：地域の中小企業や創業者による地域資源を活用した商品開発、ブランド化等の取組が域外にも売り出せるよう、様々な機関と連携の取れる人材を派遣し次世代の創業者の発掘育成及び地域の事業者の経営革新を図る。

ふるさとプロデューサー育成支援事業の図

③地域ベンチャー留学

主催：NPO 法人 ETIC
事業概要：大学生を対象とした日本全国の地域企業や NPO での新規事業や商品開発に携わる実践型のインターンシッププログラム。期間は約１ヶ月からで長期休暇を利用したり、通える範囲の場所は長期的な参加もできる。

地域ベンチャー留学　地域一覧

④島おこしインターンシップ

主催：株式会社カケハシソリューションズ
事業概要：町おこしに取り組む日本の離島と、都会ではできない就業体験を望む学生とを繋ぐプログラム。大学生が離島の様々な事業所にてインターンシップ生として就業すると同時に、SNS 上で島での生活や様子を発信し、最終的には各島の PR 動画を作成する。

島おこしインターンシップの企業抜粋

⑤全国の移住計画団体

団体概要：それぞれの地域について住む、仕事、人、イベントなどカテゴリー別に情報発信していきながら外から人を積極的に呼び込もうとしている団体。行われるプロジェクトなどは地域で様々である。九州地方は特に活発的。

神奈川県三浦市における体験観察

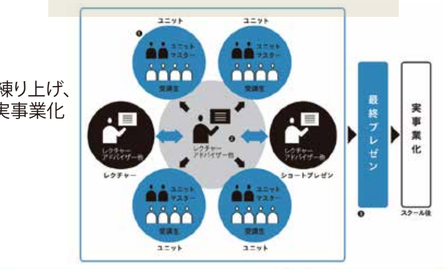
地図:google mapより）

リノベーションスクール

概要：実際の遊休不動産を対象に参加者たちが「ユニット」とよばれる１０人程度のチームを組んで、3日間でリノベーションの事業プランを練り上げ、最終日に遊休不動産のオーナーに提案し、スクール後に提案をもとに実事業化を目指します.

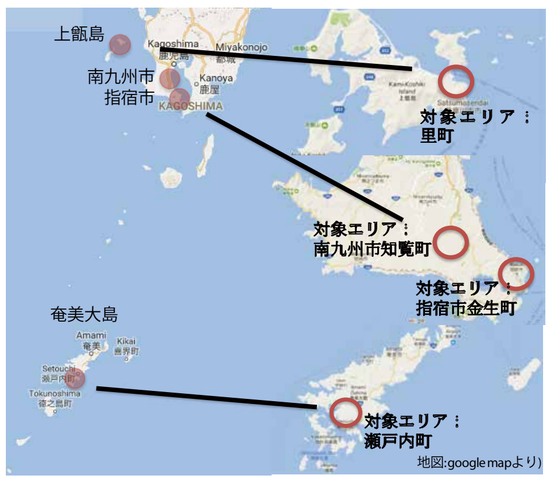
実際には下の写真にあるような空き家や貸し倉庫などを利用した。
その内の１つのプランとして、三浦野菜を使用した料理教室ができるシェアキッチンスペースとして事業プランを練りました。

トライアルステイで用いた物件の内観と外観



リノベーションスクールの事業概要図

鹿児島県における経験と体験観察



地図:google mapより）

島の風景画となる写真スポット（甑デザインキャンプで選定）　インターンシップ先（山下商店）外観

地域ベンチャー留学
体験期間：2015年8月中旬～9月下旬にかけて

2015年8月16日から9月6日まで鹿児島県の上甑島という離島にあるH株式会社で民宿の営業やお豆腐の製造、販売に関する研修を行った。当時、会社設立から５年目で従業員は10名以下の規模で社長のKさんご夫婦と大学時代の仲間とともに運営していた。事業内容は豆腐の製造・販売や独自開発した甑島名産品の販売をするカフェ併設のY商店。島の日常を味える民宿F家。そして島のガイドツアーである。
私は民宿の女将であったMさんの元で民宿の準備や豆腐の行商、Y商店での販売などを行った。
またその年からの新しい取り組みとしてkoshiki design campが開催され、
９名の参加者と６日間の共同生活をしながら「甑島」をテーマに新しい企画・デザインを考えた。
私の提案は「こしきフォトジェニックマップ」で、上甑島の日常風景の中で
写真に映える場所をいくつかピックアップしSNS上のハッシュタグを利用して写真コンテストを開催するというもの。

島おこしインターンシップ
体験期間：2014年8月中旬～9月下旬

2014年の8月から9月にかけた３週間、奄美大島で宿泊施設
(旧)マリンステイステイションにてインターンシップを行った。
住みながら宿泊施設での研修、地元の方との交流を通して
イベントの手伝いなども行い、観光では味わえない普通の島の生活を送った。
私たちの目的は奄美大島の島おこしにつながるPR活動であるため、
毎日SNS上で島での日常を紹介していった。
私のお世話になった集落の方たちは、みんなが家族のように支え合っている人たちだった。研修していた宿泊施設の隣にある一軒家、集落みんなのお母さんが営む「イソシギ」にみんなで集まり毎晩島のこと、昔のこと、なんでも語り合う。
現代の東京において近所の人と毎晩集まるといった光景はまず見ない。
島の環境が島民の助け合い精神やあったかさをつくりあげていて、
都会の環境で生活していては芽生えない本来の人間性が奄美の人たちはごく普通に持ち合わせていた。

研修先　外観

研修先目の前の海岸　向かい側は加計呂麻島

南薩トライアルステイ
体験期間：2016年9月19日～29日

祖母の代から受け継いできて現在第三代目の老舗お菓子屋さん〈鳥越屋〉
の女将を務めるSさんのもと、で就労体験及び地域活動に参加した。
摺若会という、湯ノ浜地区の人たちで結成するリーダーを務めるSさん。
鳥越屋の店内には、広い空きスペースが用意してあり、イベントを継続的に企画している。
「子宝通りに活気を取り戻したかった。だけど、私ひとりができることには限りがあるから、お店の半分をイベントスペースとして貸し出すことにしました」
そこでは、音楽会や劇などのイベントが定期的に行われるようになり、
以前より通りに人が集まってくるようになったそう。
「民間レベルで地域の課題を解決しながら、地域の子どもたちを巻き込んで、
大人の働く姿を見せていくことが大切です。こんなに生業があるなら外に出て行く必要ないって思われることをし続けたい」と鈴木さんは語ります。
地元の元気がなくなっていくことは、すごく残念なこと。
同じような思いを持つ人にとって、こうした地域と向き合っているSさんの姿は
地域の優しいリーダーの象徴であった

↑研修先　外観（左）
老舗菓子　製造中（右）

温泉祭り（左）　→
指宿駅前イベント（右）

体験観察及びヒアリングまとめシート

	神奈川県三浦市	鹿児島県（指宿市、南九州市、薩摩川内市、奄美市）
トライアルステイ（お試し移住体験）	移住や二拠点居住を考えている方に、市内の空き家物件を貸し出し、一定期間暮らしの体験をすることで、移住や二拠点居住の可能性を参加者に見いだしてもらうステイする物件は、戸建てありマンションあり、ロケーションも海の前、畑ビュー、交通の便のよいものなど、それぞれ参加者のニーズに適応する物件をマッチングさせる。 期間は 9 月半ばから 11 月にかけて。 去年に引き続き 7 物件×3 期間、21 組を募集。期間中は町歩きツアー、参加者と地元民との交流会、去年の参加者からのアドバイスや相談ができる Facebook ページで繋がることが可能 ［ヒアリングより］ Y さんファミリー トライアルステイ期間： 2016 年 9 月 17 日～10 月 16 日 参加したきっかけ：職場を変えず、自然豊かなところで子育てがしたい 住み心地はよく　不便はあまりな	〈指宿市、南九州市〉 自身体験：2016 年 9 月 19 日　29 日 参加者とのシェアハウス、そして地元企業での就労体験という組み合わせでお互いの情報交換や地域の人との交流も気軽にしやすく良かった。また検討会では実際に県外から移住してきた方、地元企業や住民の方、そして行政の方など様々な人と集まれる機会もありリアルな移住経験のお話や行政側の支援の方向性なども一同に話し合える機会はとても貴重でした。 南九州市知覧町 トライアルステイ物件 指宿市金生町 トライアルステイ物件
行政の取り組み	トライアルステイ及びリノベーションスクールのみ	〈指宿市・南九州市〉トライアルステイ及びそれぞれの市で取り組みがある
民間の取り組み	［ヒアリングより］ 小道具家を営む横浜から移住してきたオーナーが空き店舗を借りて、三浦に来てお店を出そう考える若者とシェアしている。 また週末は三崎でお店を開いている移住者や地元の人と一緒に MISAKI MARKET」を毎月第１日曜日に開催して５年目を迎えている。最初は３人からのスタートで開催していたマーケットだったが、徐々に出店したいという人が集まってきて現在では１０数人の個人事業のかたたちと盛り上げている。 また新規で移住してきた人たちでお店を持ちたいとしている人たちに空き家を共同で借りる手伝いなども行っている。	〈南九州市頴娃町〉NPO 法人おこそ会 「Uターン、Ｉターン者を迎えうる活力ある地域づくり」を目標に掲げ、頴娃の芋にこだわりメンバー自らが芋の植え付けや収穫をも手掛けるまちおこし焼酎の生産、修学旅行民泊受入を中心としたグリーンツーリズム、文化イベント、教育、次世代エネルギー、古民家再生など各種プロジェクトを行ってきた。代表のＫさんは埼玉出身のＩターン者である。 昨年から地域おこし協力隊受け入れていて、鹿児島県の中央市出身のＵターン者である。
移住計画団体	現在なし	【鹿児島移住計画】（団体） 外部の人たちと鹿児島の場、人、職、住をつなぐ団体で様々なイベント等を企画。中でも全国で初めての取り組みである「鹿児島移住ドラフト会議」では野球のドラフト指名のように移住希望者と移住受け入れ希望者のマッチングを行う。
地域おこし協力隊	募集はしていない	〈指宿市〉 平成 29 年１月から「移住コンシェルジュ」として２名の地域おこし協力隊が入る。 住まいや子育て仕事に関する相談体制をつくる。 〈南九州市〉 昨年 11 月から頴娃町の NPO おこそ会と一緒に新たな観光促進を企てるべく WEB デザイナーの M さんが着任した。
ふるさとプロデューサー育成支援事業	募集はしていない	〈薩摩川内市〉 都内の IT 系の会社に在籍しながら、週末やリモートワークを利用して実家のある鹿児島県で様々なプロジェクトに関わっている。中でも私もインターンシップをさせていただいた上甑島の山下商店にて新しいイベントの広報として参加。南薩トライアルステイでは２週間のリモートワークの様子などもレポートにまとめられていた。

結論

1、仕事に左右されやすい ,,,,参加者の多くはフリーランスで働いている方が多く移住者や多拠点居住を今実際に行っている人たちの多くもそうである。

2、人の縁をたどっていくこと ,,,,自刃のことをあげると、鹿児島県にはなんおゆかりもなかったが初めて奄美大島に訪れるきっかけとなった島おこしインターンシップで離島の生活を肌で感じたことで鹿児島県に興味を持ち以来毎年訪れている。そこで毎回出会う鹿児島の人たちとの繋がりがあってこその魅力でもあるといえる